

2021 年 1 月 1 日

《病院名》
《担当者》先生

「脳卒中の急性期診療提供体制の変革に係る実態把握及び有効性等の検証のための研究」
日本脳卒中学会急性期連携医療プロジェクト

依頼内容：血栓回収療法実態調査（後方視的登録研究）

拝啓 先生にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

急性脳梗塞に対する再開通療法の有効性が確立し、日本脳卒中学会の脳卒中センター認定事業が始まりました。また、突然やってきた COVID-19 の拡散は、我々の日常生活、脳卒中診療に大きな影響を及ぼしました。先生には日々お忙しいことと拝察いたします。

皆様にご協力をいただきました先行研究班「脳卒中の急性期診療体制における施設間連携体制構築に関する研究」では、いわゆる drip&ship を含む転送による機械的血栓回収療法の実施が安全に行われていることを示すことができました。概要は研究班 HP

(<http://sc-res.umin.jp/>) をご確認ください。

この度、厚生労働科学研究「脳卒中の急性期診療体制の変革に係る実態把握及び有効性等の検証のための研究」班を組織し、3 年間活動することになりました。本研究は、地域における脳卒中急性期の施設間連携体制の現状、課題及びその解決策を明らかにすると共に、施設間連携医療の有効性や安全性に関する科学的根拠の創出を目指すことになりました。

研究計画は別添のとおりです。先生にはぜひこの研究のご参画いただき、血栓回収療法の施設間連携の現状把握にご協力いただきますようお願い申し上げます。参加には、施設倫理委員会または病院長の承認が必要となります。研究関連資料は HP (<http://sc-res.umin.jp/>) にて入手できますので、何卒宜しくご協力賜りますようお願い申し上げます。

データは、第 1 期（2019 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までに血栓回収療法を施行された症例の情報）、第 2 期（2020 年 1 月 1 日から 12 月 31 日まで）、第 3 期（2021 年 1 月 1 日から 12 月 31 日まで）となります。ご多忙のところ恐縮に存じますが、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

敬具

厚生労働科研 脳卒中の急性期診療提供体制の変革に係る実態把握及び有効性等の検証のための研究
日本脳卒中学会急性期連携医療プロジェクト
主任研究者 坂井信幸（神戸市立医療センター中央市民病院 脳神経外科）

日本脳卒中学会 理事長 宮本 享